

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑤児童期（6歳～12歳）の生活と発達

- ◆ 心理学者による見方や考え方がたくさん存在していることを知りました。特に興味を持ったのはエリクソンによるライフサイクル論で8つの発達段階においてプラスの命題とマイナスの命題が対立しているということです。児童期には努力することで身につく勤勉性とうまくいかずに劣等感を抱くこともあるということを理解した上で、劣等感が大きくならないようにその子どもに応じた支援が必要だと感じました。
- ◆ 生態学的システム理論から、子どもがどのような家庭・学校生活・地域社会で過ごしているか、背景を知ることが発達の理解や支援に必要であることが分かりました。その他にライフサイクル論についても学び、今回学んだ理論を基に、日々の支援について考えてきたいと思いました。
- ◆ 支援員は子どもの生活の保障など、責任が多いと改めて感じました。子どもに対して、熱心に接していても子どもに理解されていないような接し方にならないように「熱心な無理解者」にならないことを頭に入れていきたいです。子どもの発達は家族、学校、地域社会の中でつくられることから、放課後児童クラブでも生活のしやすい環境をつくり、安心して生活できるような信頼関係を築き、発達について日々学びながら全体についても見通しをもって従事していきたいです。
- ◆ 今回の科目で子どもの発達には「プラス（自主性・積極性）」と「マイナス（罪悪感）」を両方とも経験させることが大事だと学びました。そして、マイナスを経験した時にそれをクリアするためにはどうしたらいいかを、一緒に考えていくのは私たち大人だということを改めて思いました。私は子どもたちが倒れてしまう前に、すぐに手助けをしてしまいがちですが、子どもが自ら起き上がる手助けが必要で、それができるように心がけていきたいです。
- ◆ 放課後児童クラブは子どもたちの生活や発達を保障する場所であり、子どもたちがどのような環境で過ごしているのかという視点をもつことが発達理解や支援には不可欠です。放課後児童支援員が成長することで、子どもたちの発達を実質的に保障します。「熱心な無理解者」にならないこと、「教えること」と「学ぶこと」の間に「ズレ」があることを認識し、当事者（子ども自身）から学ぶことの重要性を知りました。